



普及だより たむら

No. 220

2019.2

編集・発行

福島県県中農林事務所田村農業普及所

田村郡三春町大字熊耳字下荒井176-5

TEL (0247) 62-3113(代)

FAX (0247) 62-6069

ホームページ

田村農業普及所

検索

ごあいさつ (田村農業普及所長 菅野 雅敏)

平成最後の年を迎え、皆様方も、今年の農業経営をどのようにしていくか考慮中のことと思います。昨年、良い結果となったピーマンやトマトなど園芸品目の栽培拡大はもとより、田村地方に合う、米の新品種「里山のつづ」の作付拡大など、より前向きな営農をご検討ください。

そのための参考情報として、220号となる「普及だより たむら」をお届けします。

今後とも、関係市町・JA等と連携し、皆様のさらなる所得向上に向け、農業経営をサポートして参りますので、よろしくお願ひします。

新規就農！

「ふくしまからチャレンジ！ 就農フェア」を開催しました！

◆県内外から47組60名が来場

平成30年12月2日（日）、郡山市の県農業総合センターにおいて、新規就農希望者の掘り起こしを目的とした「就農フェア」を開催しました。

フェアには、県北、県中、双葉、いわき地域の市町村や農業団体、農業法人など20ブースが出展し、県内外の47組60名の来場者と就農に向けた相談を行いました。

田村地域からは、田村市、三春町、小野町、(株)JAアグリサポートたむらが出展し、のべ20組の来場者と就農相談を行い、数名とは研修や就農に向けた具体的な相談を行い、継続支援中です。



写真：就農相談の様子

◆就農セミナーを同時開催



写真：熱心に聞き入る来場者

同会場では就農セミナーも開催し、田村地域の先輩若手農業者2名から就農体験談などをお話いただきました。聴講者は熱心に聞き入り、就農に向けた具体的な質問も出されていました。

20代～70代までの幅広い方が来場し、来場者からは「役に立つ話しが聞けて良かった」、「農業に対してすこし具体的なイメージを持てるようになった」などの評価を多くいただきました。

次年度以降も、相談の場を設けるため、開催できるよう準備をすすめていきます。

◆充実のサポート体制

田村地域では、平成28年度に普及所、各市町、JAが中心となった、新規就農者へのサポート体制を整備し、関係機関・団体が密に連携し、就農相談会の実施や研修会の開催などをおし、就農希望者等に支援や首都圏でのイベント出展などの活動を行っています。

その結果、新規就農者は増加しており、定着率も向上しています。

また、定年退職者等へのアンケート調査の実施や就農促進チラシの配布を行うなど、定年等を機に農業をはじめの方への支援も積極的に行っています。

引き続き、新規就農希望者の相談・支援を行ってまいりますので、就農を希望している方や定年退職を機に農業を始めたい方はもちろん、職業として農業を検討している方や農業に興味のある方は、普及所、各市町、JAに、気軽にご相談ください。

「アグリクリエイターズたむら」の活動をご紹介します！

◆若手のグループです！

「アグリクリエイターズたむら」は、平成30年2月に田村市内の若手農業者が農業でずっと暮らしていける地域の実現に向けて、新たなチャレンジをすることを目的に設立されたグループです。

今年度は定期的なマルシェやグループ内研修会を行いました。

◆「マルシェ」を開催しました！

今年、7月から11月まで月1回の合計5回、マルシェを田村市役所の屋外スペース等で開催しました。毎回、メンバーの農業者が、愛情を込めて育てた、新鮮で高品質な農産物が棚に並びました。マルシェは好評で、リピーターのお客も見られました。

◆実際にトラクターに乗ってみました！

12月14日、田村市内において、グループ内研修会を開催しました。先輩農業者（指導農業士）を講師として、トラクターの特性やメンテナンス方法の説明の後、実際に新規就農者がトラクターを操作しハウス内の耕耘方法についての実習を行いました。

普段、教わる機会が少ない研修内容に、新規就農者を始め、出席者は熱心に学んでいました。



写真：マルシェの様子



写真：研修会の様子（中央：指導農業士）

田村農業普及所では、田村地域の今後の農業を担う若手農業者の確保・育成に向けた取組を積極的に行っています。

今後も、若手農業者や新規就農者の活躍にご期待ください。

FGAP認証取得者をご紹介します！

◆FGAP認証取得者が誕生しました！

県が認証するFGAP（ふくしま県GAP）は、生産者自らが良い農業を実践するため取り組むべき項目、「食品安全」、「環境保全」、「労働安全」、「工程全般に係る記録等」に加え「放射性物質対策」を詳細に規定していることに大きな特徴があり、福島県産農産物の風評払拭に期待がもたれています。平成30年11月15日、田村地域の2名の生産者が、FGAP認証を取得しました。

◆ブルーベリーで認証取得！

三春町の門馬稔治さんは、ブルーベリーで認証を取得しました。会社員時代に他県に赴任中、県産農産物への強い風評被害を目の当たりにし、自分で農業を始めるに当たって、生産物の安全性を目に見える形にしたいと、GAPに取り組みました。

今後は、観光摘み取り園の開園を予定しており、地域の活性化につなげたいとしています。



門馬稔治さん（中央）

◆トマト、ニンニクで認証取得！

小野町の吉田政美さんは、トマト、ニンニクで認証を取得しました。農場の信頼性を高め、競争に勝つ農業経営に加え、安心・安全な農産物生産を実践し、次世代へ良い農業の取組を形としてつなぎたいと考えています。

今後はGAP認証農産物として、首都圏へのPR販売も積極的に行っていきたいとしています。



吉田政美さん（右から2番目）

「里山のつぶ」はもう召しあがりましたか？

◆田村市船引町堀越産「里山のつぶ」を天皇に献上！

平成30年度の新嘗祭献穀献納者に田村市船引町堀越地区の佐藤円治さんが選ばれ、献穀に向けて県の新しいオリジナル水稻品種「里山のつぶ」を作付されました。



写真：抜穂祭の様子

佐藤さんの熟練した栽培技術と田植以降高温で経過した天候によって、「里山のつぶ」は順調に生育し、9月には、田村市長、JA組合長、地元生産法人等関係者立ち会いのもと、古くからの地域の習わしに則り、「ぬいぼさい抜穂祭」が行われ、黄金に実った稲穂を刈り取りました。丹精込めて調製された献穀米は、10月22日に佐藤さんご夫妻と田村市長により、皇居に届けられました。

普及所では、今回の献穀を契機として、「里山のつぶ」の更なる普及とブランド化に取り組んでまいります。

◆「里山のつぶ」は倒伏しにくい、作りやすいと評価！

今年度の「里山のつぶ」生産者からは、「次年度は作付面積を拡大したい」という声が多く寄せられています。興味のある方は、ぜひ、普及所までお気軽にご相談ください！

お祝い事が続いています！

渡邊御夫妻が福島県農業賞を受賞、吉田さんが緑白綬有功章を受章！！

平成30年9月7日に第59回福島県農業賞表彰式が開催され、田村市常葉町の渡邊広さん・竜子さん御夫妻が、農業経営改善部門（菌床しいたけ）で受賞されました。

新技術の導入やコスト低減への工夫、収量向上技術の考案などの取組、さらに田村地域でもいち早くJGAP認証を取得しました。また、就農のための研修生や農業体験の受け入れを積極的に行い、しいたけ生産や農業の魅力向上に取り組むとともに、イベント等で地場製品のPR活動を行うなど、多大な地域貢献もされています。

農事功績者表彰では、田村市都路町の吉田修一さんが緑白綬有功章を受章されました。吉田さんは震災・原発事故後、いち早く営農を再開した1人であり、県の指導農業士として若手農業者の育成に貢献しました。また、ほ場整備事業では、工事委員会副会長として農地集積にも取り組まれました。



渡邊広さん・竜子さん御夫妻



吉田修一さん

「たむらのピーマン」30周年記念！

田村地域ではピーマン栽培が始まり30年を迎え、生産者や歴代部会長、関係機関・団体等計117名参集のもと、栃木県湯西川温泉で、ピーマン導入30周年記念式典が開催されました。普及所では、これまでに、JA営農指導員と一体となり、作付者の掘り起こしや栽培技術支援を行ってきました。



写真：30周年記念式典の様子

さらに、選別機、集出荷施設、予冷庫の拡充整備の際には、補助事業の活用支援を行い、ピーマン生産基盤の構築を図ってきました。

これらの普及活動及び関係機関・団体の努力が、現在、県内一の生産量を誇る「たむらのピーマン」を作り上げ、栽培開始から30周年を迎えることができました。

今後、さらなる高齢化、担い手不足が想定されます。

普及所としては、ソーラー自動灌水システム等の省力化技術を継続して推進するとともに、新規就農相談会の開催、新規就農希望者や定年帰農者等に対する経営・栽培に関する提案や助言を行い、担い手の確保を目指していきます。

たい肥を利活用して土づくりを進めましょう！

作物の生産安定を図るためには、たい肥等の有機質資源を上手に活用した土づくりが重要です。

普及所で作成している「田村地方たい肥供給者リスト」には、たい肥舎整備やローダー・攪拌機の導入、製品たい肥の成分分析を行い、中身のわかる良質なたい肥づくりが進められている農場を掲載していますので、積極的な利活用をお願いします。

なお、国内外の伝染病発生の懸念もあり、一部の農場では一般の方の立ち入りを制限している場合もありますが、たい肥の理解を深め、安心して利用いただくことは、大事なことだと考えますので、各農場の製造工程等に関心があり、見学したい方は、一度普及所へお問い合わせください。



写真：さらさらした良質な完熟たい肥